

いぶすきまるごと博物館

vol.192

市における温泉の産業利用は、大正時代にさかのぼります。鹿児島高等農林学校初代校長の玉利喜造博士は、温泉熱を利用した蔬菜栽培研究を行っており、指宿の温暖な気候のもと温泉の活用を目指したのです。玉利博士は、指宿試験場設置前に、指宿の「権太郎」と呼ばれる土地（現在の玉利付近）で私費を投じて地熱を利用したウズラの孵卵実験を行いました。この実験は失敗に終わりましたが、温泉熱利用産業を推し進める契機となりました。これを受けて指宿村議会は温泉利用研究の支援のために、鹿児島高等農林学校に広大な土地（指宿村立石）を寄付しました。大正7年（1918）、高等農林学校は指宿植物試験場を設置（弥次ヶ湯温泉付近）し、温泉熱利用の栽培試験が開始されました。栽培されたのは、ナスやキュウリの他、ガラス温室を使った140種の熱帯植物でした。温室温床を用いた小ナス、ネットメロン、キュウリ、トマトなどの促成栽培は有効で、特に小ナス（指宿1号と指宿2号）は東京、大阪の市場で好評を博しました。

民間の温泉熱利用は、大正14年（1925）の外村亀吉氏らによるナスやスイカの栽培が最初です。外村氏は、科学的集約農業の普及や面積当たりの増収を図り、多くの人々の栽培成功につなげるとともに、大正11年（1922）には販売体制の確立のため、「指宿温泉熱利用副業組合」を設立し、昭和4年（1929）には「指宿温泉熱利用園芸組合」に再編成しました。

当時は世界恐慌の最中でしたが、組合は栽培規模を

温泉熱利用産業史

拡大していきました。昭和18年（1943）の戦時経済統制によって組合は解散しましたが、指宿では甘藷苗の温泉利用育苗が実施され、戦中戦後の食糧確保に大きく貢献しました。第二次世界大戦後は、小ナスなどの温泉熱利用栽培が再開され、行政の支援もあり、昭和35年（1960）までにはスイカ、キュウリ、トマト、ネットメロン、ピーマンなどの生産が盛んに行われるようになりました。

また、昭和26年（1951）以降ビニールフィルムが普及したことで、温泉熱を活用した観葉植物の栽培農家も増え始めました。昭和38年（1963）には指宿観葉植物組合が設立され、1970年代にかけて生産規模が拡大していき、全国に販路が広がりました。昭和53年（1978）には、農事組合法人グリーンファーム指宿生産組合によって観葉植物団地が建設されましたが、これは、当時、東洋一といわれました。現在でも指宿は日本屈指の観葉植物生産地です。

図歴史文化課文化財係 ☎⑤1100



▲鹿児島大学 指宿植物試験場正門

人づくり つながりづくり 地域づくり 学校・地域「応援団」

No.2

指宿小学校では地域学校協働活動として、朝の時間に地域の大人が子どもたちに「夢」を語る「夢」講話を実施しています。令和3年度に3回実施された講話のうち、令和3年4月の第1回「夢」講話で地域ボランティアの内田勝朗さんが講師を務めました。

コロナ禍での活動のため、放送室からそれぞれの教室にいる子どもたちに話しかけるように講話をしていただきました。

小さい頃プラモデルなどを作ることが好きだった経験が、物を作る仕事に就きたい気持ちにつながったという内田さん。自分がしたことや作ったもので周りの人が喜ぶ様子うれしく感じたこと、自分の好きなことを仕事にできたので長く続けてこれたということなどを話しました。



内田さんは最後に、「夢」を実現するために大事なことは、何になりたいかではなく、どんな人間になりたいかということで、それを考えることで目指す「夢（目標）」が広がっていくと締めくくりました。子どもたちは、それぞれの教室で内田さんの話を真剣に聞いていました。

◀放送室から講話を行う内田さん

図社会教育課社会教育係（ふれあいプラザなのはな館内） ☎⑤1023

ボランティアのきっかけは？

地域の人と知り合いになったことでいろいろな人とつながったこと

「夢」講話を終えて

子どもたちに思いが伝わっていたらうれしい

皆さんに一言

もっといぶすきの良さを知って好きになってもらいたい



「夢」講話 講師
うちだ かつあき
内田 勝朗さん

〈「夢」講話の講師 内田勝朗さん紹介〉

内田さんは「夢」講話の他にも、公民館講座でドローンを使った体験活動も実施しています。

この公民館講座では、小型ドローンの操縦と簡単なプログラミングを学習しています。現在、中福良自治公民館でも実施しています。



定期シリーズ

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会

～2023バージョン～ かごしま国体・大会 PRポロシャツ販売



令和5年（2023）に開催される本市開催競技5種目（特別国民体育大会／ゲートボール（全種別）・ソフトボール（成年女子）・バドミントン（全種別）、特別全国障害者スポーツ大会／グランドソフトボール（視覚）・ポッチャ（身体））のPRポロシャツを製作しました。

PRポロシャツを着て、両大会を一緒に盛り上げましょう。



▶販売価格

1枚 2,750円（税込み）

※商品は注文月末日の2週間後に、ふれあいプラザなのはな館でお渡しします。

▶カラー／右写真参照

▶申込方法／電話

図燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会指宿市実行委員会事務局（ふれあいプラザなのはな館内） ☎⑤1014



市実行委員会
ホームページ



観光シリーズ～光を観せて、魅せられて～ vol.88 指宿の「菜の花」を全国へ

「菜の花の沖」[竜馬がゆく]などで知られる小説家の故・司馬遼太郎氏が菜の花を好きだったことにちなみ、例年、東京や大阪において、命日の2月12日ごろ「菜の花忌シンポジウム」が開催されています。毎年、本市の菜の花が装飾されており、今年も会場に約500本の菜の花をお届けしました。



その後、シンポジウムを主催する（公財）司馬遼太郎記念財団様より「指宿の菜の花は、見た全ての人を笑顔にしてくれました」とお礼の手紙と会場の様子が写された写真をいただきました。菜の花の花言葉である「明るさ」と「元気」、そして、「小さな幸せ」を市の花に指定されている菜の花

を通じて、お届けすることができました。

菜の花の季節は終わってしまいましたが、これからの季節は、もう一つの市の花であるハイビスカスをはじめ、ひまわり、ブーゲンビリアなどの美しい花々が街中を彩り、指宿の夏を演出してくれます。4月29日に行われたアロハ宣言から市民の皆さんにはアロハシャツやムームーを着用いただいています。市内全体を通して、「南国指宿」「東洋のハワイ指宿」を全国にお届けできるのではないのでしょうか。

これからも、観光課としても、指宿の豊かな自然や宝である観光資源を最大限に活用し、多くの皆さんにさまざまな方法で指宿の魅力を発信していきます。

図観光課観光総務係 ☎⑤2111 ☎322・323

